

Windows NT 系の OS、つまり Windows NT / 2000 / XP では、OS のセットアップを完了した時点でファイル / プリンタ共有機能が動作しており、「デフォルト共有」あるいは「管理共有」と呼ばれる共有フォルダが自動的に作成され、Administrators グループに所属するユーザー（管理者）だけがアクセス可能になっている（Windows XP では、製品の種類や利用形態によって、作成されない場合がある）。

コマンドプロンプトで共有しているものを確認する時

> net share

共有されるディレクトリ	共有名	備考
ハードディスクのルート・ディレクトリ	ドライブ名 + "\$"（例：C\$、D\$、E\$...）	共有設定されるのはハードディスクのみ。そのほかのドライブは共有されない

管理共有を完全に停止させるには、以下のレジストリの値を変更する。

・キー：HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\Lanmanserver\parameters

ここに、クライアント向け Windows（NT Workstation、2000 Professional、XP Professional）では

「AutoShareWks」

という値が、Server 向け Windows（NT Server、2000 Server）では

「AutoShareServer」

という名前の DWORD 値を新規作成し、値を「0」にする。値作成時の既定値が「0」なので、特に値は指定しなくてよい。逆に、この値を「1」に設定すると、管理共有が作成されるようになる。

ただしこうして管理共有を無効化すると、前挙の SMS や MOM など、管理共有の存在を前提としているソフトウェアは正しく動作しなくなる可能性があるということに注意が必要である。基本的に管理共有の意図的な無効化は、インターネット向けのサーバなどが主な対象になるだろう。

参考

<http://www.atmarkit.co.jp/fwin2k/win2ktips/281stpdefshare/stpdefshare.html>